

緊急企画!
放射能対策講演会
※保育あり

「知ろう、学ぼう、考えよう」 放射能から子どもを守るために。 今、私たちができる対策。」



放射能汚染の不安のある生活から子どもを、家族を守るために必要な対策を講じるべく
ぜひ聞いてみたい!と思う先生、専門家にご意見、アドバイスを伺う機会を設けます。
テレビや新聞で報道されることと、ツイッターなどのインターネットで得られる情報の違いも感じます。
即席の情報で安心感を得るよりも、日々でできる対策と一緒に学び、考えてみませんか?
お仕事しているお母さんも、都内にお勤めのお父さんも、小さなお子さんがいらっしゃるご家庭も
お時間の都合がつけやすい夜の講演会企画です。保育もつけます。(事前予約制です)

◆ 日時: **10月25日(火)** 開場 18:00 開演 18:30

◆ 会場: **横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール**

JR 鶴見駅東口より徒歩1分 (横浜市鶴見区鶴見中央一丁目31番2号シークレイン内 TEL.045-511-5711)

◆ 定員: 500名

◆ 費用: 事前申し込み 1,500円 当日 1,800円 (事前申し込みで満員の場合は当日券はございません。)

◆ お申し込み方法: web のお申し込みフォームから、事前申し込み制とさせていただきます。

<http://www.motheru.jp/> マザーHPより講演会ご案内ページにフォームへのリンクがございます。

※インターネットをご利用にならない環境の方は、下記【必要事項】をご明記の上、FAXや携帯メールからもお申し込み頂けます。

TEL.045-350-6391 (平日 10:00~17:00) FAX.045-350-6392 E-mail <cobo@motheru.jp>

【必要事項】 ①チケットご希望枚数 ②お名前 ③お電話番号 ④メールアドレス ⑤在住地区 ⑥ご年齢 ⑦ご職業
⑧参加動機 ⑨講演会でご質問されたいこと (ご不明な点は事務局宛てお電話でお問い合わせください。)

▶ お申し込み内容を事務局で確認後、受付番号を発行し、お振込口座を記載したご案内メール (もしくは FAX) を返信致します。(自動返信ではございませんので、36時間以内に返信がない場合は恐れ入りますがお問い合わせください)

▶ お振込みが完了された方から優先的に、事務局でお席を確保します。チケットは発行致しません。

※当日は受付完了の返信メール(または FAX)のプリントアウトをご持参されるか、返信メールの携帯画面を
ご提示ください。

◆ 保育... ※上記講演会へ参加申し込みをされた方のみ受付です。保育のみのご利用はできませんのでご了承ください。

定員: 30名 時間: 18:30 ~ 21:00 の2時間半 (18:00より受付)

保育のお申し込み方法: メールで <narao@motheru.jp>宛にお申込みください。

その際、①受付番号と申し込み者のお名前 ②預けたいお子様のお名前(ふりがな)、性別、ご年齢(月齢)
③アレルギーの有無 ④注意してほしいご要望、ご質問など 必要事項を必ずお知らせください。

※未就学児童優先で受付します。保育スタッフはアリスベビーシッターに委託します。
なお、財団法人 こども未来財団へ保育助成金を申請中です。(2011年9月15日現在)

<プログラム>

18:00 開場

18:30 開演 主催者挨拶

18:35 第一部: 基調講演

武田邦彦氏 (中部大学教授)

|

19:15 (15分休憩)

19:30 第二部: パネルディスカッション

【参加者】

武田邦彦氏 (中部大学教授)

伊藤隼也氏 (医療ジャーナリスト、写真家)

下村健一氏 (内閣広報官室内閣審議官)

【コーディネーター・司会進行】

あべみちこ (マザー代表)

|

20:20 質疑応答

|

20:50 終了



講師・パネリスト



武田 邦彦氏

◆ 中部大学教授
(所属: 総合工学研究所)

1943年東京都生まれ。工学博士。東京大学教養学部基礎科学科卒業。専攻は資源材料工学。卒業後、旭化成に入社。同社ウラン濃縮研究所長在任中、世界で初めての化学法のウラン濃縮に成功し、日本原子力学会から最高の賞(平和利用特賞)を受賞。放射線関係では第一種放射線取扱主任者など広い分野の原子力実績を持つ。名古屋大学大学院教授を経て、現在、中部大学総合工学研究所教授。内閣府原子力委員会および安全委員会専門委員を歴任。著書に「環境問題はなぜウソがまかり通るのか1,2,3」(洋泉社)、「偽善エネルギー」(幻冬舎)、「原発事故 残留汚染の危険性 われわれの健康は守られるのか」(朝日新聞出版)、「放射能と生きる」(幻冬舎新書)など多数。

パネリスト



伊藤 隼也氏

◆ 医療ジャーナリスト
/ 写真家

国内外を問わずさまざまな医療現場を精力的に取材。03年からフジテレビ「とくダネ!」にてメディカルアドバイザーを務める他、TV・雑誌・書籍など多数のメディアでより良い医療のあり方を追求・発信し続けている。08年には、東京都の周産期救急搬送システムの不備を徹底検証した記事(週刊文春)が、第15回「編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞」大賞を受賞。震災直後より、何度も被災地入りし取材を重ねる。その情報と知識をフル活用し監修した「世界一わかりやすい放射能の本当の話 子どもを守る編」(宝島社)は、各方面より大反響を得る。近著に健康をサポートする実用書「オトコの病氣 新常識」「オトナの病氣 新常識」(講談社)等。

パネリスト



下村 健一氏

◆ 内閣官房審議官(内閣広報室) / 市民メディアアドバイザー

1985年TBS入社後、報道アナウンサー・ディレクター・特派員として活躍。この間、脱原発社会を目指す市民運動に関与。99年にフリーランスとなり、以後、市民メディアの映像レポート制作支援と、メディアリテラシーの講師をライフワークに。東京大学客員助教授などを歴任する傍ら、『筑紫哲也NEWS23』『みのもんだのサタデーずばっと』等でレポート出演も継続。昨年チェルノブイリ24周年の日には、映画『祝の島』完成上映会に応援登壇。同10月から期間限定の民間登用で現職に。著書に「マスコミは何を伝えないか」(岩波書店)、共著に「報道は何を学んだのか」(岩波ブックレット)等。

コーディネーター



あべみちこ ◆ マザー代表 / コピーライター & クリエイティブディレクター

母対象の情報、モノ、場をうみだす企画会社マザーを2004年起業。従来の広告スタイルにこだわらず、主婦向けブランドやコミュニティを開発し、元気で笑顔になるプロジェクトを多数手がける。子育て、教育、環境など社会的問題に着眼したテーマを設定し、雑誌やウェブで執筆、インタビューとして活動。母向けのワークショップ、講演会、コンサート企画などを通じて、横のつながりをもてる交流の場を考案。著書に「食と絵本を楽しむものがたりレシピ」(幻冬舎)、「たべものかるた」(ほるぷ出版)、「赤ちゃん絵本ノート」(マールトロン)など。絵本評論や物語創作、親子対象の絵本お話し会などボランティア活動も行う。

【お問い合わせ】 TEL: 045-350-6391 (10時~17時) / E-mail: obo@motheru.jp

主催: 有限会社マザー / 協力: ファイアー! プロジェクト・横浜の子どもたちを放射能から守る会

マザー